

2022年度 法科大学院

第5期入学試験問題

2 時限

民法

(論文式)

試験時間 50 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民法]

Aは、建築会社Bとの間で、甲建物の建築請負契約を締結した。また、Bは、甲建物の建築をCに下請けさせた。なお、Bは、Cに甲建物の建築を下請けさせることについて、Aの承諾を得ていない。

Cが甲建物の建築に従事していたところ、甲建物の建築現場の隣に住んでいるDが、建築工事現場でCが聴いているラジオの音がうるさいと文句を言ってきた。C・Dは、口論となり、腹を立てたCは、Dの顔面をこぶしで殴った。その結果、Dは、鼻を骨折した。

Cの建築現場でのラジオの音量は、一般人の受忍限度を超えるものであった。また、Bは、甲建物の建築をCに下請けさせた後は、まったく甲建物の建築には関与していなかった。

この場合において、Dは、誰に対して、いかなる要件のもとで治療費の賠償を請求することができるかを検討しなさい。なお、問題の検討にあたって、場合分けが必要な場合には、場合分けをして答えなさい。